

日中がわぐす

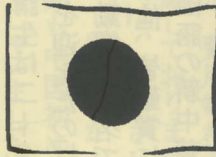
No.42

2010年 7月10日発行

ホームページ

www5.ocn.ne.jp/~k-jcfa

編集・制作 電腦俱樂部



川口市日本中国友好協会

川口市上青木1-20-3

TEL 048-253-2177

発行責任者 栗原喜一郎

宇宙服はいくら

理事長 栗原喜一郎

筑波宇宙センターを見学した。門を入ると長さ五十メートルの宇宙開発用ロケットがあつた。一九七五年のN-1から最新のH-II Bまでの歴代ロケットの二十分の一サイズ七台、本物のロケットエンジンがあり、宇宙ステーション、試験棟では、国際宇宙ステーションの内・外部も見ることが出来た。

さいたま出身の若田宇宙飛行士等が宇宙服を着て、水中で訓練したブルもあつた。

宇宙服は宇宙船の船外活動を行うために着るとのことである。宇宙船外は空気もなく、宇宙放射線が飛び交う厳しい環境のため、船外活動を行う時に着る宇宙服は十四層からなっているとのことである。

オランダに負けた。サッカーのワールドカップ予選で、四カ国のリーグ戦で、日本チームはオランダだけには負けたのである。

七月二日の決勝トーナメント

トの準々決勝で、オランダは優勝候補といわれていたブラジルを二対一で破った。

この試合を見て、日本が決勝トーナメントで争う力をつけるにはオランダに学ばなければならぬかと思つた。

龍馬伝の視聴率が高い。NHK連続大河ドラマである。明治維新で活躍した幕末の志士は、鎖国から開国に当たつて、最初に学んだ欧米の言葉はオランダ語であり、学問は蘭学だつたと聞いた。オランダ語にとどまらず、第二の外国語英語を学んだものが明治の国作りに貢献したといわれている。

緑色の帽子をかぶると笑われるとのことである。今年の川口日中友好協会の中国研修視察旅行「三峡下りと三国志の史跡めぐり」で、中国人のガイドから聞いた。

緑色は四季でいえば春、方位から見れば東、人の一生ならまさに青年期。なのになぜ？

国が変われば、考え方、風俗、習慣も変わるもの。中国

に行つて初めて知つたことで、交流の大切さを思つたのである。

第二外国語を大学では選択する。私の学生時代は、文科系はフランス語、理科系はドイツ語だつたが。私の孫三人は、中国語、フランス語、ドイツ語と三人とも異なっている。

オランダ語にとどまらず、英語まで学んだ明治維新の志士を思うとき、第二外国語に限らず、第三外国語まで学ぶグローバル時代、更に地球上にとどまらず、宇宙から地球を見る宇宙時代がこれからなのだと思つた。

一着十億円の宇宙服を着て、宇宙旅行をすることを夢みたい。



第三十二期修了式と 第三十三期開講式

教室代表 本多 路子

三月二十六日(金)午後八時より栗原理事長、加藤事務局長出席の下、第三十二期入門Bクラスの修了式が栄町公民館にて挙行されました。昨年の四月の開講時受講生は二十名でしたが、修了式を迎えたのは十六名、その内皆勤賞は五名でした。修了証書の他、皆勤賞には記念品とし中国語の新中華字典が贈られました。三名は都合で退室しましたが、十三名が協会員となつて四月より初級Bクラスに進級しました。

また四月二日(金)午後七時から、第三十三期中国語教室の開講式が挙行されました。同じく理事長、事務局長出席の下、十一名の入門受講生が開講式に臨みました。

このほか今年には初級以上のクラスに三名の編入者がありましたが、受講生は昨年を大きく下回り、今後の受講生募集が大きな課題となつてきました。

今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

大連の廁所にて

市東 文子

大連旅行の折に上品なご婦人が一方的に自己紹介をしてきた。「三十四歳から六十歳の今日まで中国語、茶道・華道、フラメンコをずっと習つてゐる。その上お酒大好き(海量!)」

翌日の昼食時、飯店には女性廁所が二箇所あり、一箇所はトイレが詰まり使用不可。沢山の女性が行列を作つていた。原因は大方日本人。私とて最近やつと中国で便器にトイレを流さず塵箱に棄てる習慣がついた。すると男性廁所から澄ました顔で海量が臆面もなく出てきた。辛抱できなかったのだろう。

次の日、高速道路のバスの中で男性が前に出てきて、ガイドに言った「廁所行きたいけど」ガイド「少しお待ちください」十分後、男性の奥方、即ち、海量が前に走り出て怒り声で命令。「我慢限界! 停まつて!」バスは停まり、雨の中、海量は傘も差さずに低木の茂みに消え、見えなくなつた。いや司機

だけには見えただろう。暫くして何事もなかったかのようにバスは静かに走り出した。

彼女の座席横には数本のビール空き缶が……!

たたら祭り協賛参加

内野 繁子

八月七日(土)八日(日)は恒例の水餃子販売です。川口鑄物海研会、中国鑄物研修生、川口日中の三者共催により二十年以上にわたり、川口市民の皆様は本場中国の水餃子の味を紹介させていただき、たたら名物として多くの方に支持されております。

今年には店の目印となる横断幕も新調しこれから準備に取りかかります。会員の方でまだたたら名物水餃子を召しあがった事のない方ぜひ水餃子の店にお立寄りください。西門から入り車券売り場に沿つて左方向に行つたビル・お酒の隣です。

一バック五個入り三百円
会員ボランティア募集中です。



中国映画鑑賞会

鑑賞資格 国籍年齢を問わず
開催日 平成22年11月14日(日)
会場 スキップシティ4F
入場料 無料
ビジュアルプラザ映像ホール
主催 川口市日中友好協会
主題 9月初旬発表

中国語発表の集い

平成22年10月3日(日)午後1時半
会場 埼玉会館 7A
NPO法人埼玉県日中友好協会主催
参加希望者は川口中国語教室の幹事または代表へ申し込んで下さい。
参加するためのフォロー(練習会)をいたします。

長江三峡視察旅行

副事務局長 菅原 昭

栗原理事長を団長に、十四年目の研修旅行を行いました。中国における最長の川、長江の船旅、三泊四日帝王号、五つ星デッキ付き船室、毎日の荷物移動もなくゆつたりとした旅でした。これまで、平成十七年の黄河、平成二十一年の桂林麗江下りと、船の旅を楽しく、終える事が出来ました。

毎回旅行計画は前田さん、浅倉さんのご協力を頂き、西安中信国際旅行社日本部長張部長とのスケジュール、費用等打ち合わせを行い実施しております。

幹事としては、参加される方々の旅行中での健康が一番心配です。今回も中国初めての方が四名いらつしやいました。その中で川端さんご夫妻（川口柳崎在住）の旅行感想をご紹介します（お手紙より）

「日本も梅雨に入り中国での雨の中を傘をさして見物したことを思い出しております。その節は大変お世話になりました。夫婦ともに感謝申し上げます。

中国の旅は腹痛との戦いでしたが、写真を見るとみなさん元氣なので、やはり楽しさの方が増していたようです。沢山の写真とDVDをお送りいただきありがとうございます。思い出のたくさん詰まった、アルバムとして大切にいたします。主人もおかげさまで帰ってこられ、徐々に疲れが出ておりましたが、もうすつかり元氣に毎日を過ごしております。参加者皆様のご親切なフォローに厚く御礼申し上げます。右厚く厚くお礼まで。かしこ」

以上のお手紙をご紹介しますて頂きました。

十六名の参加でしたが、旅行全体の気候は東京より暑いとの予想でしたが、三日間の雨で逆に寒く私も四日目、風邪を引き大変苦労いたしました。それでも、新しい友人が増えることが幹事としてはうれしく思います。「また次回も参加したいですよ」この一言で、さらに楽しい中国旅行をしなければと思っております。

来年は研修旅行開始以来十五年目の記念の年になります。

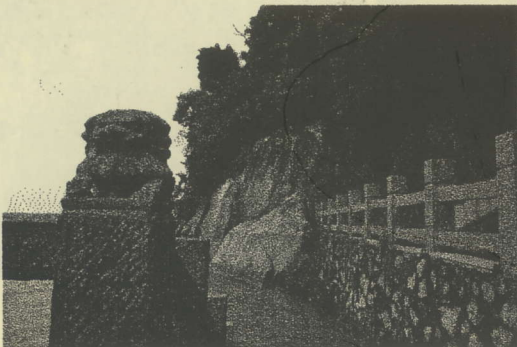
さらにはじめての皆さんもご参加下さい。私も今までの旅で中国の都市約九〇%、世界遺産二十七カ所を研修することが出来ました。百%目指して健康に注意し楽しい人生の記録を作っていきたいと思ひます。



帝王号



大足石刻



赤壁



白帝城



赤壁 桃下の誓い像前

わが故郷

中国・天津

張偉榮

故郷の天津を出たのは今から十年前です。八年ほど北京におり、学問に励み、その後留学するきっかけがあり日本にやって来てから、早いもので二年が過ぎました。二〇〇〇年七月、第一希望の清華大学に入る夢が叶った喜びはまだ昨日のこのように感じられますが、早い日々はこの瞬く間に経ちました。突然よみがえる郷愁を感じて、筆をとりました。

日本で天津と聞いたら、天津飯のみなもとだろうかと思っている方は少なくないかもしれないが、実は天津飯と称される料理は天津だけでなく、中国にも存在しないものです。本当の天津の名産といえ、それは日本でもよく売れている甘栗です。ところが、甘栗のバッグを見ると、原産地にはほとんど河北省の天津市と書いてあります。

実際には、天津が北京、上海、重慶と並ぶ中央直轄市であり、行政レベルでは省と同格となっています。

人口一一七六万人の天津は

首都北京の東南に隣接し、二〇〇八年北京オリンピックにできた高速列車に乗れば、約三十分で北京に到着できます。渤海湾に接し、昔から海外の玄関として栄えてきた天津は美しい自然に恵まれていいます。隣にある山はもとより、川も多く、かつては江南から運河や海路で北京へ運ばれる物資が、この地で陸路輸送に切り替えられます。また、中国北部最大の貿易港を擁しているため海陸ともに交通の便が良くなっています。美味しい甘栗も一般に天津港から日本に輸入されています。

天津に来た観光客にとって、一番楽しみにしているのは全国的に有名である天津の様々な美食かもしれません。その中に、中国で最も歴史の古いブランドのひとつである「狗不理」はまるで天津の看板のように中国人だれでも知っているそうです。

「狗不理」とは、犬もかわまない」という意味です。名前の由来に関してはいくつかの説があるが、最も一般的なのは、幼少時に不運から守るため「狗子」と呼ばれていた創設者の高貴友が、包子作り・売りに精を出し、

それ以外の事に一切構わなかった(不理)ことに由来するという説です。

自然風景と美食以外、天津の漫才も名高い伝統的な文化の一つであり、もともとは地元の人々の慰みですが、最近全国に流行っていて、多くの観光客がただ天津漫才のために来ると言っても言い過ぎではない。

一日の旅行の最後として、お茶を飲みながら、面白い漫才を聞くのは、大笑いと共に最高に盛り上がった旅となります。

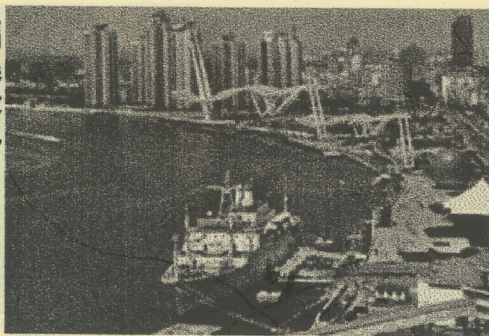
皆さんも中国語の漫才を理解出来るように
努力努力学漢語吧！



天津「狗不理」



天津漫才



天津港

編集後記

四十二号をお届けいたします。ご寄稿を感謝申し上げます。次号の発行にもご協力を賜るようお願いいたします。

編集・前田稔夫
制作・浅倉 登